

児童発達支援事業所における自己評価結果

記入日： 6年 2月 29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	10		・児童が運動できる広い療育スペースがある。・上着をかけるスペースなどがあれ良いと思う。
	2	職員の配置数は適切である	10		・連絡ノートの記入、活動準備、電話対応、訪問などでスタッフが足りない時がある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10		・部屋の名前が子どもが見やすい位置にあると良い。・ドアの開閉に配慮が必要な場所があるが、子ども達も気をつけて使用できている。・構造化だけではなく、練習を繰り返す事で理解や見通しのサポートやフォローをする様に工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10		・朝の課題に取り組みやすい様に工夫している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10		・反省会で日々の目標に対する振り返り、取り組み、計画等話し合いを設けている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		・評価表をスタッフ全員で共有し、すぐに取り組める事、長期的な目標に上げる事をまとめ、今後の業務改善に繋げようと考えている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		・毎年実施している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10		・結果のまとめを読み合って、対応改善案について話し合う場を設けている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		・研修に参加したスタッフによる報告の機会を設けてある。・外部講師だけではなく、スタッフ自身も学んだ事を纏めて園内研修で報告や勉強会を行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		・定期的にモニタリングを行っている。スタッフ全員で会議を行っている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10		・契約時、学期ごとにアセスメントを実施している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		・それぞれ児童の成長に繋がる具体的な支援方法を設定している。・関係スタッフで意見交換をして、より内容を深められる様に工夫している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		・児童発達支援計画に沿った目標を設定している。・計画の内容を含んだ毎月の強化目標を定め、1ヶ月単位で取り組み、評価している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		・朝礼で毎日行っている。・個別支援計画の立案時、必ず会議を行い、立案している。・前日の振り返りを参考に立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	・外部講師の方に依頼して、サッカーや音楽療法、動作法を取り入れている。・季節の行事等に合わせて行っている。・スタッフの人数で固定化しないと動けない時がある。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		・言語訓練、学習指導、動作法訓練と個別訓練も計画的に取り入れている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		・毎日の朝礼で確認し合っている。・朝礼時に必ず打ち合わせを行い、役割を確認している。・ディレクターを職員間で順に行い、役割やスタッフ配置を打ち合わせの中で確認、改善を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10		・支援終了後に児童の様子を報告し合い、反省会を行っている。・スタッフ間で支援の振り返りを行う事で共有できる様にしている。・他の業務で時間が取れず、すぐに共有出来ない時がある。・園児個人の事、全体プログラム、各プログラムのリーダーの取り組みなどについて、全体で共有し改善につなげる様にしている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		支援終了後に児童の様子、支援方法、改善点を報告し合い、記録を付けている。・全体プログラム、個別の記録を日々行っている。	

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		・定期的にモニタリングを行っている。・色々なスタッフが発言できるシステムを入れていきたいと考えている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		・児童発達支援責任者が参加している。個々のケースに応じて、担当職員が参加する場合もある。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10		・モニタリング、担当者会議がなされている。・学習会で外部講師を招き、話をして頂いている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10		・現在、医療的ケアが必要な子どもさんの利用が無い。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10		・現在、医療的ケアが必要な子どもさんの利用が無い。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		・関係者会議や申し送り等で情報交換を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		・就学前に就学先の先生方に来所して頂き、子どもの様子を見て頂いた上で、情報交換をイメージを共有出来やすい様にしている。・小学校からの見学を受け入れ、申し送り書を作成して、情報共有を行っている。・申し送り書を添え、直接小学校との情報共有を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		・会議が定期的に設けられているので、参加する様にしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10		・地域の子ども園との交流を定期的に行なっている。・月に1回程度の割合でお互いの園を訪問し、交流する内容も年間計画で立てている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10		・機能強化委員、児童発達支援管理責任者が毎月参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		・連絡ノートや送迎時、家庭の様子や園の様子を伝え合っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10		・スタッフによるペアレントトレーニングの研修会への参加、報告会を行っている。園内研修を行ったり、外部の主催されている研修にも参加している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	・利用契約時、年度当初の説明会時、保護者への説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		契約時、モニタリング後、児童発達支援管理責任者が個別に説明を行っている
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		・定期的に面談を行い、保護者の困りごとなどを聞き、助言している。毎月の面接以外にも、要望がある時は臨時に設けている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		コロナ前に比べると、時間、回数は減らしているが、今後増やしていけたらと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		・相談があった場合には、スタッフ間で情報を共有し、最善策について話し合っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		・機関誌を発行している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		・必ずシュレッターにかけ処分している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		・メール、電話で難しい方に対して、文字にしてお伝えする場合もある。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10		・地域住民招待の機会はない。・今後の課題としていきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	2	・改善すべき点もあるので、スタッフ間で意見を出し、更にまとめていけたらと思う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		・毎月避難訓練を行なっている。・避難訓練後の反省会を行っている。避難訓練の役割について、休みの職員がいても誰でも対応できる様に対応している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		・発作が起きた時の対応方法を確認し、明示している。・緊急性の高い、てんかん発作時の対応について、個別にプリントを作成し掲示している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		・アレルギーのある児童の給食は、他児との区別が付きやすい様に、明示している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		・ヒヤリハットに該当する事が起きた場合には報告し、改善点を話し合っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		・毎年虐待防止に関する研修を実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		・契約時、保護者の方に説明している。